

科目名	文化社会論			ナンバリング	JPN241	授業形態	講義
対象学年	2年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	帆苺基生	担当教員					

授業の概要	<p>本科目は日本でノンフィクションというジャンルが成立する以前に書かれたものから現代に至るまでのさまざまな文章を、フィクションとノンフィクションという切り口で捉え、同じテーマに沿って書かれたフィクションとノンフィクションの文章を読むことを通して、それらの相異点や共通点を考え、近代日本の文化や社会を考察していく。また、これらの文学が語る手法から、フィクションとノンフィクションの境界線がどこにあるのか、あるいはその境界線を引き直す事態に遭遇することも、本科目での試みに含むものとする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノンフィクションというジャンルの文章に対する基礎的知識を習得することができる。</li> <li>2. フィクションとノンフィクションの相異点及び共通点を説明することができる。</li> <li>3. 近現代日本の文化や社会について、文学を通して考察することができる。</li> </ol>
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<p>文学系の授業はとにかく次回扱うテキストを読んでくるのが大切です。予習はそれだけで構いません。その代わりに、授業後はしっかり時間をかけて扱ったテキストから読み取れるフィクションとノンフィクションの特質について、文章化できるようにしておくこと。</p>
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	○ 2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノンフィクションというジャンルの文章に対する基礎的知識を習得することができる。</li> <li>2. フィクションとノンフィクションの相異点及び共通点を簡潔に説明することができる。</li> <li>3. 近現代日本の文化や社会について、文学を通して考察することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノンフィクションというジャンルの文章に対する知識を具体的な作品を通して習得することができる。</li> <li>2. フィクションとノンフィクションの相異点及び共通点を具体例を挙げて説明することができる。</li> <li>3. 近現代日本の文化や社会から現在の社会が抱える問題とつなげ、具体的な文学作品を通して考察することができる。</li> </ol>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○				30%
宿題・授業外レポート	○	○	○				60%
授業態度・授業への参加				○			10%

課題、評価のフィードバック	<p>毎回授業時に提出してもらったレビューシートは適宜コメントを付けて返却する。レポートは必要に応じてコメントを付けて返却する。</p>
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	近代文学におけるフィクションとノンフィクションの境界について考える	
	第2回	ノンフィクションの歴史	ルポルタージュ文学からノンフィクション文学への流れを理解する	
	第3回	街を語る①	特定の地域を対象とした戦前、戦後、現代の観光案内を読み、その特質を考える	
	第4回	街を語る②	特定の地域を対象としたルポルタージュ作品を読み、その特質を考える	
	第5回	街を語る③	特定の地域を対象とした小説作品を読み、その特質を考える	
	第6回	出来事を語る①	戦争をめぐるフィクションとノンフィクションを読み、その特質やテーマについて考える	
	第7回	出来事を語る②	原爆をめぐるフィクションとノンフィクションを読み、その特質やテーマについて考える	
	第8回	出来事を語る③	公害をめぐるフィクションとノンフィクションを読み、その特質やテーマについて考える	
	第9回	出来事を語る④	女性をめぐるフィクションとノンフィクションを読み、その特質やテーマについて考える	
	第10回	出来事を語る⑤	労働をめぐるフィクションとノンフィクションを読み、その特質やテーマについて考える	
	第11回	現代を語る①	震災後をテーマとしたルポルタージュ作品を読み、その特質や震災後の現在について考える	
	第12回	現代を語る②	震災後をテーマとしたエッセイや対談作品を読み、その特質や震災後の現在について考える	
	第13回	現代を語る③	震災後をテーマとした小説作品を読み、その特質や震災後の現在について考える	
	第14回	現代を語る③	震災後をテーマとした小説作品を読み、その特質や震災後の現在について考える	
	第15回	まとめ	本科目で扱ったノンフィクションとフィクションの作品を用いて、日本の文化や社会と現代の問題に共通するものをまとめる	
		試験	試験は実施しない	
授業の進め方		基本的に講義形式とするが、受講者に適宜感想や意見を求めていく。		
授業外学習の指示		次回読むテキストや配付された資料は事前に必ず目を通しておくこと。授業後は講義をふまえ、テキストや配付された資料を再読し、フィクションとノンフィクションの形式及び日本の文化や社会について各自の意見をまとめておく。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	授業で扱う文章はプリントを使用する予定だが、授業開始時に指示する場合もある。
参考書	必要に応じて授業時に指示する。
参考URLなど	必要に応じて授業時に指示する。
その他	